

新たな一步を踏み出した50周年記念総会



静中静高 関東同窓会 会報

総会を終えて

102期 春日 佳子

7月5日(土)日本プレスセンターにて第50回静中静高関東同窓会総会・懇親会が開催されました。最高齢83歳(77期)から最年少23歳(137期)までの幅広い年齢層の方々154名にご参加いただき、誠にありがとうございました。立食パーティ形式による一体化した会場では、卒業期を超え、時を超え、新しい出会いや久しぶりの再会に、会話の花が咲きました。

ご来賓として母校静高・織田敦校長、同進路指導課・久保田好則先生、静中静高同窓会・松村友吉会長、関西支部・柴田尚会長、中部支部・加藤政幸支部長、そして静高野球部後援会の河村卓利会長をお迎えし、織田校長と松村会長より50周年のご祝辞をいただきました。

総会議事では、任期満了に伴う役員改選が行われ、三期目となる杉山順一会長(84期)以下、役員が承認されました。

講演は「Loveしずおか協議会」会長の沼田千晴氏(102期)から「オール静岡で『おまち』を元気に!」をテーマに、静岡市の人口減少を踏まえて、全体を包み込む組織の存在が無ければ発展が立ち行かない現状であったことや、実践さ

静中静高関東同窓会
会報 第100号
2025年12月1日発行
静中静高関東同窓会
会報編集委員会



目次

- | | |
|-----|------------------------------|
| 2頁 | 会長挨拶「創立50周年によせて」・新体制 |
| 3頁 | 総会アルバム |
| 4頁 | 「オール静岡で、おまち」を元気に!」 |
| 5頁 | 講演要旨 沼田千晴(102期) |
| 6頁 | 50周年企画「関東同窓会報を紐解く」佐藤友男(102期) |
| 7頁 | 異業種交流会報告と次回のご案内 |
| 8頁 | 母校キャリアデザインツアー協力レポート |
| 14頁 | エッセイ集(詳細左記) |
| 14頁 | 事務通信 |

第100号は、未来へ繋ぐエッセイリレー

8頁◆「関東同窓会ができるまで」

上田尚亮(79期)

◆「女性一期生の荒谷じつ子さん」

清水雅尚(77期)

9頁◆「今も続くメイチウ先生の授業」

島田淳(95期)

10頁◆「音楽の原点」同級生K君との出会い」

松隈道雄(71期)

◆「『最後の手紙』コンサート」

八牧浩行(82期)

11頁◆「私のテニス人生」青木式(82期)

12頁◆「老いの熟成」浦田彰(71期)

13頁◆「能登で復興支援」新村敏雄(94期)

14頁◆「岳南球友会」松永啓(94期)

る佐藤友男さんによる歴代応援歌の指揮がノストロップで披露されました。

歓談の終わりにはお決まりの「希望の歌」「道遠歌」を、応援指導部OBによる指揮のもと、参加者が一円となり肩を組み、意気高らかに斉唱しました。さらに今回は、大人数のため例年は行われていなかった集合写真撮影に挑戦し、「第50回静中静高関東同窓会総会」の横断幕の前で参加者の笑顔が撮れたところまで散会となりました。

この記事を書いている今となつては夢のようですが、記念すべき第50回総会の幹事期として必死に準備を進めてきた半年間でした。総会を終えた月曜の朝、共に準備をしてきた同期とぎりぎりのバスに乗り込み、「間に合つて良かったね!」と笑い合つたところで夢から覚めました。一緒に走り続け、そして無事終えられた安堵感と清々しい気持ちをお互に象徴するかのようです。不甲斐ない102期を温かく見守つて下さった役員理事の方々、前幹事の101期の方々のご協力のもと、無事お役目を果たすことができました。ここに深謝申し上げます。これまで参加するだけだった関東同窓会の裏で、こんなにも多くの方のご尽力があったことを改めて知る機会となりました。そして多くの素晴らしい先輩方や同期に出会うことで、今までよりもっと静岡を誇りに思えるようになりました。来年度主幹事となる103期の方々にこのバトンを渡し、関東同窓会の歴史がさらに紡がれることを祈念いたします。

関東同窓会

創立50周年に寄せて

静中静高関東同窓会

会長 杉山 順一(84期)



日頃は静中静高関東同窓会の活動に何かとご支援を賜り篤く御礼申し上げます。

お陰様で本同窓会は今年創立50周年を迎えました。そして本年7月の総会において節目の第50回総会を行い、併せて新しい役員人事もご承認いただき、ここに新たに力強く51年目の第一歩を歩み始めることが出来ました。本当にありがとうございます。

本同窓会は1975年6月、第1回総会を東京において開催し「静中・静高同窓会関東支部」としてスタートしました。1985年、「静中・静高関東同窓会」(現在は「静中静高関東同窓会」としてそれまで慣れ親しんだ通称を規約に定めました。初代会長は宮沢次郎氏(42期)が就任し、以降2025年7月の総会まで歴代8人の会長とそれを支える多くの役員・理事・各期幹事の皆様、そして当番幹事を紡いでくださった期の皆様や同窓生各位のご尽力で発展を遂げて参りました。

役員及び顧問(13名)

会長	杉山順一	84期
副会長	増井喜一郎	85期
"	竹田徹	85期
"	高橋宏	87期
"	桑原千朗	94期
"	大澤理	96期
"	中沢京子	97期
"	市川徳二	112期
監事	松島勤	84期
"	中尾安志	96期
顧問	野方重人	77期
"	八牧浩行	82期
"	多賀谷秀保	82期

(2025.7.5)

理事(30名)

久野淑子	83期
成岡和美	86期
野口ひろみ	86期
笠松一久	89期
牧野尚夫	89期
深沢英昭	90期
鈴木宏	91期
藤嶋善彦	91期
日下淳	92期
清水篤	92期
服部泰子	92期
阿部哲也	93期
菊入弘行	95期
芦野光憲	96期
稲葉克哉	99期
尾高泉	99期
恒光隆法	100期
長谷川和也	100期
大石智子	101期
白井正博	101期
渡辺晃生	102期
春日佳子	102期
日下雄一郎	103期
山本数馬	103期
萩原さほり	104期
三宅吾郎	104期
安竹純一	104期
新聞香織	106期
小杉祥代	107期
酒井優一	120期

(2025.9.17)

また皆様を繋ぐ会報も今年末の発行号でちょうど100号を数えます。連絡の取れる会員数は3400名余り、総会も150名前後の皆様が参集し、本部、関西支部、中部支部の役員各位や母校の校長はじめ幹部の皆様をお迎えし、今年も校歌「岳南健児」を声高らかに歌いました。

静高で学んだ「わずか3年間の時間」がこんなにも人生に、交友関係に、強い絆と深い思いを残すものか、と母校の存在や往時の恩師の皆様のご指導や育みのありがたさを改めて心から感じるところです。

また2028年11月には静高は創立150周年を迎え、いま静高同窓会は母校と共に会を挙げてその準備に余念がありません。いまここに「母校創立150年」「関東同窓会創立50年」の時を迎え、この長い歲月の中、幾多の先人、同窓生の皆様の静高に寄せる深い母校愛と、同窓会運営への変わらぬご支援、ご協力にあらためて深甚の感謝を申し上げ巻頭のご挨拶と致します。

任期満了に伴う役員改選については、三号議案として次期会長候補の杉山順一氏(84期)以下役員候補について理事会より上程し、全員異議なしとして可決承認されました。

また、9月3日に開催された正副会長会において、杉山会長より新理事体制が発表されました。9月17日に新理事も迎えた理事会を開催し、新体制が開始しました。理事につきましては必要に応じて今後も運営強化のため、追加指名を行います。

総会議事報告

新体制

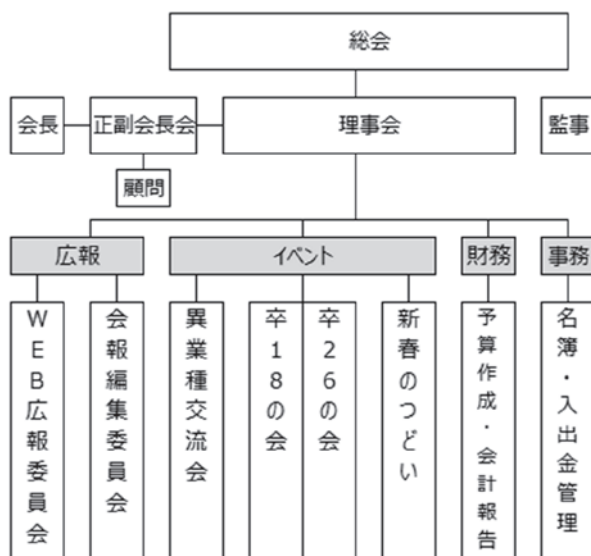
7月5日に行われた静中静高関東同窓会総会にて、一号議案である2024年度事業報告・決算報告・監査報告、二号議案である2025年度事業計画・予算計画の二議案について審議を行い、共に賛成多数により可決承認されました。

理事会では、今年度下半期のイベントについて協議をした結果、参加者数が減少傾向にある「新春のつどい」を、全会員対象から、現体制では集まる機会のなかった各期幹事に参加対象を変更して継続することになりました。「新春のつどい」の前身である各期幹事会に原点回帰をしつつも、話しやすい懇談の場と致します。

各期幹事の方々には個別にご案内をしますので、お気軽にご参加くださるよう、よろしく願います。

各期幹事の氏名一覧は、ホームページ「組織」に掲載しておりますが、各期により事情もおりと思いますので、代表者の交代については、お近くの役員までご連絡ください。

静中静高関東同窓会 組織図





受付ほか準備万端。12:30 開場。



プロの滑らかな司会で開会



生徒の様子をお話してくださった織田校長先生



野球部後援会の選手紹介は毎度楽しみ



皆様のご理解のもと議案が可決



壇上スポットライト使用と会場暗転で、スライドが見易くなりました



会場リーダー陣頭指揮でレイアウト転換



猛暑続きで外出を控える先輩が多い中、元気なお顔を見せてくれた最高齢 77 期



大人になってからも校歌・応援歌で声を合わせられる同窓会



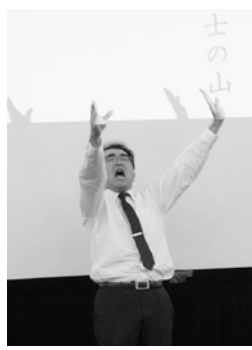
就活を終えて新たな門出。最年少の 137 期。また遊びに来てください



「希望の歌」佐藤友男（102 期）



「逍遙歌」山本数馬（103 期）



「校歌」平山真（103 期）



102 期の皆さん、本当にありがとうございました!!



講演要旨

「オール静岡で
『おまち』を元気に!」

I Love しずおか協議会

会長 102期 沼田 千晴



私の実家は呉服町にある「刃物の政豊」です。呉服町に生まれ育った「おまちっ」で、高校時代はバスケット部に在籍し、全国大会に出場しました。刃物の政豊は静岡で創業100年を迎えました。政豊の公式キャラクター「おとぎちゃん」は公募で採用しました。「政豊は頭がおかしくなったんじゃないか?」とまで言われましたが、市内の異業種交流会で萌えキャラを公募する社長に出会ったのがきっかけでした。こういった親しみやすさへの工夫が、おまちの盛り上げには必要であると考え、自身の店から始めてみたものです。

I Love しずおか協議会

ただ、各店舗単位でやれることには限界があります。包括的な取り組み

みができないものかと思案していました。福岡市など先行するローカル協議会の活動も参考にしつつ、難しいことはさておいて、まずはみんなで笑って飲んで一緒に考えよう、「おまち」を元気にしようということで、「しずおか」という言葉を使い「I Love しずおか協議会」が2012年に立ち上がりました。

初代会長・森恵一氏（84期）が急逝し、現在、私が二代目会長を務めています。春には静岡まつり、夏には安倍川花火大会や夜店市、秋には大道芸ワールドカップも開催される静岡市ですが、冬のイベントが何もありません。協議会ではそこに着目し、まず2024・2025年シーズンに「冬しず おまちハートファンタジー」と称するイベントを開催しました。ハート形のイルミネーションに加え、ハート形のどらやきやコロツケなども好評を博しましたので、次回2025・2026年シーズンには更に進化した企画を計画しています。



各店舗・団体がハートをモチーフにした商品開発に賛同。売り手と買い手の双方が楽しみ、活性化しおまちの冬イベントは、今年度も開催される。

やれるところから「しず」

呉服町の「札ノ辻」に、高さ2.5メートルの高札（こうさつ）場を作りました。観光ガイドさんが「江戸時代」にこういう高札場があったから「札ノ辻」なのだ」とわかりやすく解説できるようにしました。

子どもたちに身近な歴史を感じてもらうため、駿府城探検イベントも企画しました。1回目は常葉大学、2回目は静岡・郷土研究部と静岡学園・歴史研究部が講師を務めた。普段学校の同級生たちの中では話題が合わずにいた歴史好きの子どもたちが嬉々として参加し、保護者様からもご好評を頂きました。

市内のイベントを一覧できる仕組み（LINEアカウント）も協議会で作成しました。

静岡市のいまこれから

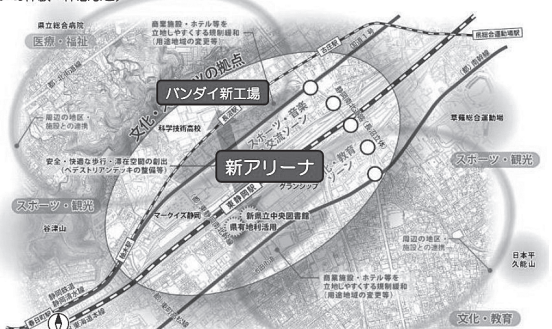
静岡市は人口問題が深刻です。旧清水市等を含めた静岡市の人口は2009年がピークで、2020年には70万人を下回っています。国の人口が減っているのに、静岡の言葉で言えば「しゃあないね」となりがちなのですが、出生・婚姻率、年齢別人口などをランキングしてみると、他の政令指定都市以上に「若い人がいない」ということがはっきりします。これに対し、静岡市ではたとえば青葉シンボルロード（青葉公園）では、歩行者を通りやすくするといった社会実験を行いました。静岡駅南口ではロータリーを二つに分けるとか、広場を大きくして商業施設も誘致するといった計画が進んでいます。駿府城公園の整備の一環として、

天守VR制作の準備も進めています。順調に進めば来年の静岡まつりでお披露目できるかもしれません。若い人に向けた取り組みとして、例えば「まどか☆マガカ」などのアニメ作品を制作しているシャフトという会社の静岡スタジオではスタッフを募集しています。長島兄弟（長島寛人氏（126期）、長島悠人氏（131期））は、なかなかお目にかかれないIT起業の成功者ですが、彼らは静岡へのプレゼンスも非常に高く、学生相手に「起業」をテーマに講演するなどサポートしてくれています。「静岡100人会議」は、同じ「静岡」というくくりの中で、いろんな年代の人が集まって活発な意見を交わす場です。この企画の中心になっているのが野球部出身の内田雄樹氏（132期）です。

そのほか、あの大浜公園プールがリニューアルされたり、日本平インター付近で広大な土地が再開発されたりしています。旧清水市でも清水港の日の出地区に客船誘致を進めてきましたが、先日、ついに大型クルーズ船（オペレーション・オブ・ザ・シーズ）が接岸しました。長沼駅の近くでバンダイが新工場を作っています。ミュージアムも開設されます。ミュージアムの隣にはアリーナ建設も計画されています。静岡基盤のバスケットボールチーム（ベルテックス）は、規定を満たすアリーナがなく上のカテゴリに行けないという問題を抱えていますので、なんとかして数年後に上に行けるように頑張っていきたいと思っています。そして、ふるさと納税のお話です。

これからの東静岡のまちづくり

新たなアリーナや新県立中央図書館、既存のグランシップ等の施設（ハード）と、まちで提供・実施されるサービス・活動（ソフト）の連携がもたらす、まちの新しい価値（最先端の文化・スポーツ・エンタメの体験・体感など）



流出額が流入額を上回っている状況をなんとか逆転させたいと思っていますので、OBの皆さまには遠方よりぜひご協力をお願いします。「おまち」はビルが古く、安全性の確保が迫られています。大手企業を誘致しようにも耐震条件が厳しく誘致できない課題がありますので、まずはしっかりとリニューアルしたいと考えています。故郷にお立ち寄りの際は、我らがおまちの進化をぜひ皆様にも体感していただけたらと思います。

◆沼田千晴（102期）

静岡の「おまち」をもっと元気にしたい、と商店街を超えたまちづくり活動に参画。グルメイベント「静岡おまちバル」初代実行委員長。2021年「I Love しずおか協議会」第二代会長に就任。

第50回総会懇親会企画報告

関東同窓会50周年記念企画

「関東同窓会報を紐解く」

102期 佐藤 友男

関東同窓会50周年記念企画として、関東同窓会報の記事175件（編集後記等を除く）をデータベース化し、分析を行いました。題して、「関東同窓会報を紐解く」。なお、データ集計は全て一人で行っており、十分な検証がなされたとも言えないため、その正確性を完全に保証できるものではない旨をご了承頂ければ幸いです。

【同期情報】

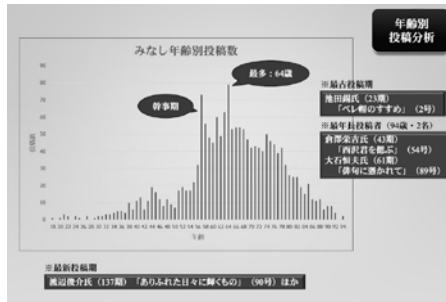
創刊号には42期から76期まで、全部で24学年分の「同期情報」が掲載されました。実は創刊号が最も同期情報の多い会報となり、最近の会報で同期情報を見る機会とはほとんどなくなりました。最も投稿が多かったのは64期。同期会の他に「同期ゴルフ会」も毎年のように開催されていましたので、同期情報も自ずと倍増したものでしょう。

【期別・年齢別投稿】

一番古かったのは池田錫氏（23期）の「ベレ帽のすすめ」2号、1976年。「ベレ帽の効用は、被って軽く、禿や白髪をかくし、而も、頭を大切に保護してくれるにある。」「ベレ帽を被ったままで何の失礼にも値しない」と、その効能を大いに勧める、誠に微笑ましい文章です。会報刊行年と期から推測した「みなし年齢」による最高年齢投稿は倉澤栄吉氏（42期）の「西沢君を偲ぶ」（54号、2002年）と大石恒夫氏（61期）の「俳句に憑かれて」（89号、2020年）で、ともにみなし年齢94歳（大石氏は記事中ご自身を91歳とされています。原稿執筆時と掲載時との差と推察します）。いやいやお達者です。ベレ帽も脱帽です。

【同一テーマ・同一シリーズ投稿（事前告知・案内を除く）】

投稿回数	氏名	会報	投稿時年齢	タイトル
37回	船岡聖平（51期）	36～44号	74～82歳	静岡の万葉を歩く（1）～（37）
29回	藤田彰（71期）	70～99号	74～89歳	たかが洞窟会、されど同窓会（1）～（29）
23回	佐野龍（64期）	46～83号	69～88歳	「歌のふるり」あれや・これや（ほか）
17回	佐藤孝（94期）	83～99号	58～64歳	山崎孝友会・静岡県野郎部通信
9回	片見孝雄（53期）	12～23号	61～64歳	諸君の諸君 40期野郎部 一氏の諸君「心の軌跡」から
6回	山崎龍（73期）	52～81号	63～78歳	パソコン書簡記（ほか）
5回	片見孝雄（53期）	7～11号	61～63歳	イルカと人間（1）～（5・完）
4回	田中武夫（52期）	5～8号	61～63歳	アサビの地に十五年を過ごして（1）～（4・完）



51期・原崎郁平氏のシリーズ「静岡の万葉を歩く」は18年に亘り連載された。

みなし年齢投稿者数。最高齢は94歳の42期・倉澤栄吉氏と61期・大石恒夫氏の2名。

【個人別投稿】

最も投稿が多かったのは、原崎郁平氏（51期）でした。原崎氏

はシリーズ投稿「静岡の万葉を歩く（1）～（37）」の連載が群を抜いています。30号（1990年）から66号（2008年）まで、一度も休むことなく投稿を続けられました。そして、最終投稿となった66号に続く67号には原崎氏ご逝去の報がひっそりと。命ある限り、静岡県内に点在する万葉歌碑を関東同窓会員に伝え続けたそのパワーにはひたすら頭が下がります。

なお、浦田彰氏（71期）の「たかが同窓会、されど同窓会（通算29回）」と、松永啓氏（94期）の「岳南球友会情報（通算17回）」は直近の99号でも連載中です。今後の記録の伸びに期待したいところです。

【各種行事】

会報には卒業18年目の会や卒業26年目の会、古書コミや異業種交流会、新春のつどいなどの各種行事に係る記事も多数掲載されています。特筆すべきは「江の島会」。関東同窓会を軽く上回る、70年以上の歴史を有する伝統の江の島会ですが、その素顔は「気楽で何という事もなく楽しい天下の『江の島会』（村松直氏（42期）、2号）」という評が全てを物語っているのでしょうか。中には麻雀大会のように「やってはみたものの、ルールがばらばらで全く統制が取れなかった」という微笑ましい行事もあったようです。【会報が持つ意味と、これから】会報記事をデータベース化し、分析するという、地道で果てしない作業を続ける中で気付いたこと

とがありました。最古投稿期（23期）は既にご紹介した通りですが、では最新投稿期はというと、これが137期です。50年分の会報が、実は100年以上もの歴史を綴っていることに気付いたのは、本企画の取り纏めも最終盤に差し掛かった頃でした。

会報には、かつて学帽をデザインした表紙が付されていました。8号からは表紙なしとなりましたが、実は9号だけは表紙が復活しています。9号の編集後記には、こんな記載がありました。「：表紙無しの形としたのは台所の事情だろうとのことお心遣いで多額の御寄附まで頂き委員一同大感激でした。それやこれや考へ合はせ、相談の結果、今回は元の表紙付スタイルとなりました。」



東京藝大卒業後、積水化学工業株式にて製品のデザインを担当していた中村次雄氏67期による表紙画。現在、松戸市立博物館に、関東同窓会会報第13号が所蔵されている。

この一文に、支え合いながら発展してきた関東同窓会の神髄が現れているのではないのでしょうか。関東同窓会会報の全ての記事の中で最も心を動かされたのが、「編集後記」だったというのも、ドラマチックなお話ではありま

せんか。これからも「静岡」「関東」をキーワードとする情報共有・交流のツールとして、また世代を超えたメッセージを残すツールとして、会報の存在意義は回数を重ねるごとにますます高まっていくことでしょう。

関東同窓会報が存在する意義を見つめ直し、次の50年へ。50年後の2025年にまたこうして会報を紐解いてくれる人物が現れることを密かに期待しつつ、筆を置きたいと思います。この文章も、50年後の誰かがきくと読んでくれますよね。

当日は、過去の総会50回分をまとめ、5曲の応援歌を添えたスライドショーも作成し、応援指揮とともに披露致しました。「関東同窓会報を紐解く」プレゼンテーションで使用したスライドも併せ、関東同窓会ホームページ「特集」メニューから閲覧できますので、ぜひお楽しみください。



総会スライドショーの応援歌に合わせ渾身の応援指揮を5曲連続で披露するプレゼンターの筆者。

業種、世代を超えた交流 異業種交流会報告

次回、第37回は1月開催

6月6日(金)、日本プレスセンター9階大会議室にて第36回異業種交流会が開催され、29名が参加しました。今回はINPEXの大澤理氏(96期)がファーストスピーチを行いました。

「地球のお医者さん」 「医療の技術で地下を診る」



大澤理氏は1980年に東京大学大学院を修了後、シュルンベルジェという石油・ガス探査サービスという国際的な会社に就職しました。物理探査という技術により地下の様々なデータを計測し、さらにこれらのデータや解析するシステムを、石油開発会社や大手商社に提供している会社です。その後、英国やフランスでの勤務を経て、都内及び相模原で勤務、2015年にINPEXに転職しました。

物理探査の技術

「触診やエコー技術の地下への応用」

物理探査には、音波、ガンマ線、比抵抗などを用いたいくつかの検層技術があります。医療で使われるエコーの技術に対比して、海上地震探査の技術、そして日本で開発されたソニックスキャナーによる音波検層の技術が一例として動画で紹介されました。また、私達もよく医療の世界で耳にするMRI(磁気共鳴断層撮影)は、磁場共鳴の性質を持つ水素原子の動きから、磁場を掛けたり止めたりすることで、その緩和時間を計測し、血管のイメージを造影しています。そして同じ技術を地下に応用した核磁気共鳴検層という技術で地下の油層・水層を解析していることが説明されました。



シェールガス掘削

「内視鏡の技術を地下に応用する」と

また、一般人にも同様に馴染みのある内視鏡の技術と対比させ、地下に対して傾斜掘り、水圧破碎微小地震モニタリングの技術を応用した技術革新により、シェールガスやシェールオイルの生産が可能になったことが、動画を用いて紹介されました。

地球温暖化の真実

「私たちができること」

講演の最後では、「地球は病んでいる」として、地球温暖化の科学的事実と対策について触れています。PCCの報告書によれば、地球温暖化は疑う余地がありません。1980年以降の気候変動は前例がなく、海面は上昇しており、極地の雪や氷も1980年以降減少しています。温室効果ガス排出の約70%はエネルギー起源で、2100年の温度上昇を2℃未満に抑えるには、2030年の化石燃料需要を現在の3分の2に減らす必要があります。

エネルギー企業として、温室効果ガス排出量の削減、植林活動、石油・石炭からLNGへのシフト、CCS(二酸化炭素の分離・貯蔵)、メタネーション技術の開発、再生可能エネルギーへの投資などが必要です。一方、個人レベルでは、まず正しい知識を持ち、地球温暖化の事実を周囲に伝え、省エネや環境にやさしい製品の購入など、身近なところから行動することが重要だと締めくくられました。

後半は懇親会



ファーストスピーチに続き、参加者全員が、それぞれの仕事や近況を短くお話ししていただいたあと、懇親会を行いました。今回は、同じエネルギー開発に関わったことのある業種の方や、金融会社の方、近所のカラオケ仲間が偶然にも大澤氏の先輩だったことがわかった方、転職前の同僚同士が偶然この交流会で居合わせた方々など、奇遇な接点が見つかった方が多かったように思います。また、総会幹事期を昨年終えた先輩と、現在、奮闘している後輩で、円陣を組んで情報交換をする光景も見られました。ビールを飲みながら、卒業期を越え、業種を越えて、皆さん笑顔で交流されていました。自分が想定していなかった出会いがあるからこそ、人間はおもしろいのかも知れません。同じ卒業生として、関東でそれぞれ頑張っている皆さんがそれぞれ

次回のご案内

第37回の異業種交流会は左記のとおり開催します。お気軽にご参加ください。

◆日時…1月30日(金) 18時半

◆参加費…無料

◆場所…次頁参照

◆ファーストスピーチ…

107期・木本雅彦氏

東工大(現東科大)理学部情報科学科卒業。博士(理学)。IT技術者兼小説家。

◆テーマ…ありすぎる「好き」を

全部貫いてみた30年の足跡

お申込みは、期と氏名、後半の懇

親会への参加有無をメールでお

知らせください。

shizukukanto@gmail.com

に、有意義で豊かな時間を持ち帰り、明日への活力としてくださったのではないのでしょうか。



開催場所の変更

異業種交流会はこれまで長年、内幸町にある日本記者クラブで開催して参りましたが、日本プレスセンターの閉館時間21時まで退室を完了することを目的に、ファーストスピーチや参加者自己紹介、そして懇親会そのものの時間がかなり切迫したプログラムとなりました。

今回、新しい試みとして、異業種交流会の前半を貸会議室で行い、終了後に皆で近くのお店へ移動し、後半の懇親会を少しゆとり行えるような構成で試行してみることになりました。

当日まで人数確定できぬまま会場を押さえることは一般的にはなかなか難しいものですが、高OBであり『静岡の美味しいものガッツ』店主である112期・市川徳二氏のご協力を得て、高田馬場で懇親会を行います。異業種交流会へ参加申込みをされる方は、あくまで予定ということとで結構です。懇親会への参加有無も併せてご連絡ください。また18時半からの異業種交流会への参加が時間的に難しい方も、後半の懇親会への飛び入り参加も歓迎します。寒い冬の季節、懐かしい静岡おでんに舌鼓を打ちつつ、心も体も温かなるような交流が出来たらと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

懇親会(後半)
(20:30頃から)
「静岡の美味しいものガッツ」

アクセス
高田馬場駅から徒歩1分
JR線路沿い 徒歩1分

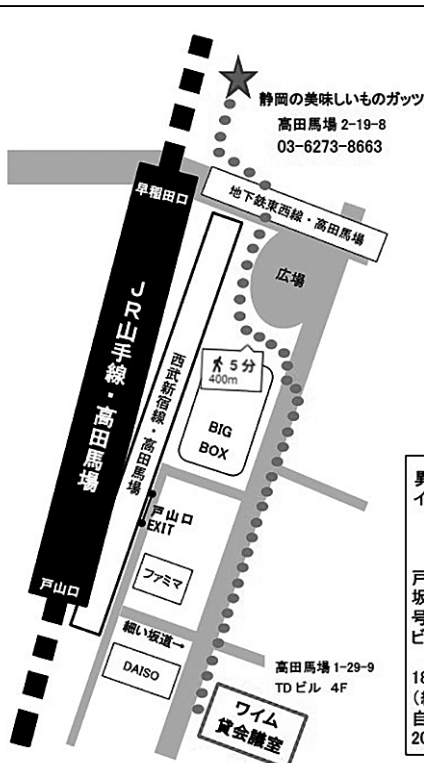
ワイム貸会議室から
徒歩5分

自由解散・途中参加 OK

異業種交流会(前半)「ワイム貸会議室」4F 事前申込要・参加無料

アクセス
戸山口から出て、細い坂道を上がり、大通りの信号渡って右手二つ目のビル、徒歩2分

18:30 ファーストスピーチ(約30分程度)後、参加者自己紹介・名刺交換。
20:30前 ガッツへ移動。



母校進路指導課主催 キャリアデザイン ツアーに協力

母校では、毎年夏休みを利用して、生徒自身が大学受験の先も見据え未来の自分をイメージしてみようという、企業見学や大学模擬授業、同窓生との交流を盛り込んだキャリアデザインツアーを実施しています。

今年は8月21・22日に、89名の1、2年生が参加しました。関東同窓会では何名かの同窓生に職場案内や交流会でのご協力をお願いしました。当日は、バスが東名高速道路での事故渋滞に巻き込まれ、最初の見学先である早稲田大学への到着が遅れましたが、池谷教授が臨機応変に対応してくださいました。

◆日程と訪問先

【8月21日(木)】
A.M. 早稲田大学(池谷教授案内)
P.M. 外務省(119期加藤調査官)
夜・同窓生との交流会(下記表)

【8月22日(金)】
A.M. 東京大学教養学部模擬授業
P.M. 東京大学工学部研究室訪問
交流会概要

18:30 ビュッフェスタイルにて同窓生と共に食事会(ホテルリステル新宿)

19:30 大広間に移動して引き続き交流会

生徒を12グループに分け、年代バランスを取った3つの同窓生グループ内でそれぞれ興味のある人に話を聞く。ローテーションを繰り返し、最大5名の同窓生と交流。

交流会に参加しご協力をいただいた同窓生

94期	池谷 知明	早稲田大学社会科学総合学院教授
96期	大澤 理	株式会社INPEX 上席監査員
96期	中尾 安志	TANAKEN株式会社 代表取締役社長
106期	渡辺 公德	財務省 大臣官房審議官
107期	小杉 祥代	稲葉総合法律事務所 弁護士
107期	木本 雅彦	サイバートラスト株式会社 技術者／作家
119期	杓谷 匠	Google入社(2008)・杓谷技研CEO
120期	高田 彩実	ayami takada architects 建築家
137期	峯村 明日斗	三菱HCキャピタル インダストリー営業本部
138期	疋田 侑大	141期 小泉 剛愼
		141期 杉本 弘輔
		東京大学 学生



◆先輩方との交流会は、最も貴重で、これからの人生の財産となるお話で埋め尽くされていた。特に印象に残っているのは、106期渡辺さんから頂いた、質問の回答だ。財務省や農水省など国家の根幹を担う中央省庁で、今も活躍を続けている渡辺さんに「高校生のうちに、これだけは身に付けておいた方がいいことは、ありますか。」と尋ねたところ、「良い質問だ。」と前置きした上で、「こう答えてくださった。『国語の古典はやっておいの方がいいね。フランス人やイギリス人は自国の古典の言語や文章を根拠に主張をすることが多いから、日本人が日本の古典をもとに主張を考えれば説得力が出るんだよ。』」あと、高校時代に体力を身に付けておくべきだよ。体力というのは、身体的なエネルギーだけではなくて、疲れた時の判断力のことも含む。特に激務をこなさなければならなくなった時、必要になるんだ。」将来を見据えて(想像して)考えることの難しい現役生にとって、『目の前の勉強が仕事や暮らしの中で実際に応用される様子』『現在積み重ねていることを続けた先に実る力』これらを言葉で教えて頂けたことは、現在にも未来にも希望が見えるような気がして嬉しいのである。卒業生の皆さんが私たちに授けてくださった知恵、これから歩んでいく私たちの高校生活。それらが融合して、大きな反応を起こすような予感がしている。(生徒の感想文より)

未来へ繋ぐ エッセイリレー



関東同窓会ができるまで

79期 上田 尚亮

会報99号に関東同窓会の50周年の記事が出ていましたが、設立前の話はなかったので筆を執りました。創設にかかわった人間は私だけになりました。もう50数年前のことになります。



東上野の「大雄」応接室にて編集打合せを行う54期・庵原悌次氏(左)、60期・上杉重吉氏(中央)、53期・月見里得知郎氏(右)。同期会などの集合写真が多い中、このような作業の記録は珍しい。

当時30歳前の私は、先輩から「お前ブラブラしているなら手伝え」と言われ、上野駅前の大雄(奥野孝社長・53期)へ行きました。事務局は社員の山田さん。お世話になりました。彼がいなければ何も出来ませんでした。凸版印刷の柳川太郎さん(42期)、会報担当の印刷業・庵原悌次さん

(54期)そして私と、4人が顔を合わせ、初めの頃はこれで同窓会が出来るのかと心配するくらいのはんびりしてました。そのうちに会長は宮澤次郎さん(42期)、副会長は柳川さんに決まっている事を知りました。実際の実務は月見里得知郎さん(53期)がキヤノンを退職してから加速していき、第1回の支部結成総会開催に至りました。

会議は奥野孝さんの弟の奥野広さん(58期)が稲荷町で設計事務所を持っていて主にそこで議論した記憶があります。鈴与の先代の鈴木与平さん(42期)が100年祭の資金集めのために同期生に呼びかけて、東京で同窓会を立ち上げようとしているとのこと。旧制中学の雰囲気満載の会でした。42期は甲子園優勝の年で団結が強いことは有名な話です。

以下、太郎次郎の話です。東大を出てから満州国の官吏になった宮澤次郎さんが敗戦後、静岡の北街道沿いの外堀の上で商売をしていたそうですが、同期の柳川太郎さんが凸版に入社させたそうです。私が出会った頃、宮澤さんは凸版ムーアの社長で日々忙しそうでした。凸版の専務を辞めて顧問となった柳川さんとは3、4年のお付き合いでしたが優しいジェントルマン、謙虚で教養のある人格者でした。先輩方はエリート集団で、この会は我々の代になつたらどうなるのかと不安を感じました。いつ総会をやるのか? 機関紙の創刊号は? いろいろ

なことが少しずつ進みました。現在の会の盛隆はさすが静高と思います。当時、運営に関わる女性には皆無でした。

旧制中学の会員は、「支部ではないぞ、独立の同窓会だ!」と言わなければなりで、本部は何者ぞとの心意気でした。柳川さんが、人間国宝・芹沢銈介先生(28期)のところに創刊号への寄稿を頼みに行つたのですが断られました。芹沢先生が文章を書かないのは有名な話だったそうです。その代わりデザイン文字は使つて良いとのことでした。国鉄総裁、下山事件の下山定則さんは34期だということも知りました。野球部の先輩でした。

私は、実家が近所だった三井物産・前田鉄三さん(32期)、ホングの川島喜八郎さん(52期)、日本レーベルの岩井平一郎さん(57期)と懇意にしていたきました。皆、後輩には優しい先輩たちでした。ふるさとの友はありがたきかな!

その後、2010年から八牧浩行さん(82期)が会長になって旧制中学の雰囲気は消え、母校も女性が多数に迫るようになり、関東同窓会も女性がいなくては立ち行かなくなりました。大改革です。立派な会報など自慢できる事です。そうそう、会費を払わない会員にも送付する伝統は創立以来のものです。八牧さんのお陰で日本記者クラブを使えるのは最大の強みです。

関東同窓会は永遠に!!

女子一期生・荒谷じつ子さん 慈母の笑顔は永遠!

77期 清水 雅尚

女子一期生、68期の荒谷じつ子さんが2024年11月15日に逝去されました。自宅が近かったこともあり度々自宅を訪ね、親密にお話を伺うことが出来ました。

荒谷さんは関東同窓会には第1回総会から参加され、「開会宣言」を度々されました。ただ全てが順調というわけでもなかったようです。新日本証券の箱根寮でのごこと、大石会長が人事について出席者に提案した際、不服として怒号が飛び交い「まるで別の世界だった。静高紳士なのに!」と嘆いておられた時もありました。

総会・懇親会、各期幹事会は勿論、博物館・美術館巡りや毎年のゴルフコンペにも同行され、懐かしく思い出されます。

東北旅行では71期の米川克己氏の広大な八幡平のペンション(イーハトーヴ)を拠点に松川温泉や中尊寺などに行き、楽しい思い出となりました。

ゴルフも毎年行われ、箱根カントリークラブなどでの楽しかったコンペが思い出されます。私も各イベントで荒谷さんはじめ多くの先輩と交流し沢山の思い出を共有しました。

特に荒谷さんと一緒に過ごした平成2(1990)年のゴルフコンペでは一組前にプレイしていた巨人軍の長嶋監督や金田正一投手た

ちと会話が出来て印象深いです。誰とでもすぐ打ち解ける荒谷さんは長嶋さんに「調子はどうですか」と笑顔で尋ねると長嶋さんは「イヤー最近では飛ぶなくなりました」と笑って答えていました。

隣にいた私が「長嶋さん、今巨人軍のフロントにいる石山建一君は私たちの高校同級生です」と伝えたところ、長嶋さんは驚いて「そうですか。大変お世話になってます」と笑っていました。

ゴルフ会で遭遇した長嶋茂雄氏(中央右)、金田正一氏(中央左)と。長嶋氏の右隣が荒谷さん、右から2番目が筆者。



荒谷さんたち68期が静高(当時城内高校)に入学したのは昭和24(1949)年4月。学制が変わる戦後の混乱期で女子一期生と呼ばれるとは思ってもいなかったようです。

以下は荒谷さんが私に語ったことです。▽せっかく静高に合格したのに、地区割というのがあり、1年目は城北高に行きました。男子生徒も

何人か城北高に入学しました。ところが、1年後に、静高に入学した女子生徒が「城北高に変わりたい」、逆に城北高に入学した男子生徒の何人かは「静高に行きたい」と希望しました。翌年には城北高の男子生徒はすべて静高に移動。他方、静高に入学した女子生徒の何人かは静高に残り、同時に城北高に入学した女子生徒の何人かも静高に移りました。この結果、女子生徒一期生として8人と言うことができると思います。



昭和24年4月入学の68期から男女共学になった。荒谷さんは、一部は城北高校に通学していた。荒谷さんは2年生より静高（当時城内高校）に通学した。

▽当初は毎日のように女子生徒のいる教室に男子生徒が覗きにきました。その頃は男尊女卑の時代、「随分でかい女だ」などひどい言われ方もされました。でも男子生徒の中で勉強できたことはとても実り多かったと思います。その後の人生でも、特に関東同窓会などの行事などを通じて人生を豊かにしてくださったことに感謝しております。

静高卒業で一番良かったことを尋ねると「結婚の際、主人からあの静高を出た女性なら間違い

ないと言われたことです」と、幸せそうにお話をされていました。



10代から運命を共にした女子一期生、特に関東在住の宇田貞子さん、酒井定子さん、杉山和子さんとは、卒業後から晩年まで長く交流が続いた。

荒谷さんは、関東同窓会のスタートから参加され、長年、同窓会の発展にご尽力されました。会場が日本プレスセンターに移ってからも、各種イベントに参加され、終了後もラウンジで楽しそうに懇親しておられました。今静高の女子生徒は4割超。在学中も卒業後も活躍しています。その礎を築いてくださったこと、本当にありがとうございます。荒谷さんのご家族からお借りした写真はすべてカラー。会報は白黒写真で残念ですが、どれも輝いている荒谷さんが鮮明に甦ります。慈母の样だった荒谷さんの笑顔は永遠に。R.I.P.



今も続く

メイチヨウ先生の授業

95期 島田 淳

五十年前に関東同窓会が発足した翌年に、我々95期は静高生となった。新一年生にとって、静高の授業は大きなカルチャーショックだった。「覚えるため」のものではなく「自分の頭で考える」ためのものだったからである。それがどんなものだったのかをまづ振り返ってみよう。

関東同窓会報第93号（2023年5月発行）では「特集 五十年後に届くメッセージ」として故鈴木明徴先生（以下、メイチヨウ先生）の随筆集『週刊メイチヨウ』（高校生と共に）を取り上げた。その際に本文では割愛せざるを得なかった「ある日の授業から」という文章がある。メイチヨウ先生が、静高での授業風景をコマメにイタッチに描写した味わい深い文章である。

その日の授業は、同僚の山梨先生の体育の直後。疲れてつい居眠りをする学生たちに「メイチヨウ節」が炸裂する。

「オメッチの食べている寿司の上ののっているものはどこで獲れるか知っているか？」

エビは台湾、イクラは北洋、マグロは「登呂（一）」ではなく南大西洋。タコはアフリカのモリタニアで、醤油の原料の大豆は中国米だつてカリフォルニア米。「卵は国産かもしれん、しかし日本の

ニワトリが食っている飼料は全部アメリカからの輸入だ。お前達は、卵焼きという名のアメリカの農産物を食っているんだ。」

そして授業は、沿岸漁業の従事者は漁業従事者全体の70%を占めるが、その水揚げ量は全体の20%に過ぎないこと、遠洋漁業中心の当時の日本の漁業に対する捕鯨規制強化の動きや国際的な漁業規制の動きについて触れていく。

とりわけ「ペルーは二百海里という領海を主張」の一文には目を惹かれる。ペルーは当時、各国の中で最大となる領海範囲を主張していた。それは、ペルー沖二百海里付近のフンボルト海流が、アンチヨビの世界有数の漁場であったという地理的・経済的事情があったためとされる。その後、国連海洋法条約の排他的経済水域（EEZ）が特段の科学的根拠無しに二百海里になった事情、EEN導入に日本が最後まで抵抗した背景などは、すべて五十余年前の静高の授業に織り込まれていた事になる（日本は1986年に国連海洋法条約を批准）。

私事だが、私は三年前に食事パンとスウィーツの店「まどのパン」を開業した。国産材料にこだわりたいとの家人の意向で、材料についていろいろ調べるうちにメイチヨウ先生の「ある日の授業から」が何度も思い起こされた。食料自給率はカロリーベースで約38%だが、小麦のそれは約15%。特にパン用小麦は数%と言われる。

塩は豪州やメキシコの天日塩湖塩を輸入して日本の海水に溶かし、煮詰めて結晶させて製造するものが大半である。小麦・天然酵母・塩・甜菜糖など、国産の材料だけで作ろうとするとかなりのコスト高となる。

しかし、国産の材料で作るパン・スウィーツには高価格という難点を上回る長所がある。日本の農産物は「美味しい」のである。また産地に近いという事は、新鮮であるだけでなく、SDGsでもエネルギー消費やCO2排出量で取り上げられている「フードマイレージ」の点でもメリットがある。

何よりも、消費者が国産の材料を選択する事は、長期的に自分達の食料を確保する基礎である。コロナ禍における世界的な物流の停滞、コロナ後の世界的な食糧・資源争奪戦と原油高・円安による「買負け」。小麦など一部の品目では、味や品質に注目の多い日本向けの生産は敬遠されているとも報道されている。これまでの「欲しい物は世界中から取り寄せる」経済は、「強い円」があつてこそ成り立っていたのだと痛感させられる。先に引いたメイチヨウ先生の言葉を借りれば、「オメッチの食べているハンバーガーの材料はどこで作られるか知っているか？」という事になる。

小麦は米と違って生産者と消費者の間に製粉業者や製パン業者が不可欠である。それぞれのプレイヤーが国産小麦を選択しなければ、生産者の努力は消費者には届かない。「まどのパン」の店

名は、内装費節約のために窓から販売しているという理由だけでなく、第一義的には「生産者と消費者をつなぐ『窓』のような存在でありたい」という思いの表現である。

毎年、新座市商工祭に出店。国産小麦ハルユタカの登場以来、高い製粉技術で一貫して、その普及を支え続けて来た江別製粉の小麦を使用している。



現時点では個人商店の蟬螂の斧だが、官公庁や教育現場、大企業で働く同窓生の皆さんが自分のできる事をしていただければ、五十年前のメイチョウ先生の「授業」は無駄にはならない。

会報第93号の上記特集では、85期の小梁吉章さんが「ぼくは先生から、学理は現実の中にあることを学んだ」と書かれている。私もその事を忘れず、今日もイベントで声を張ってパンとシフォンケーキを売っている。「自給率を高める事は決して難しくはありません！国産の農産物を皆で食べればいいんです。」—95期の演劇部員の皆さんが屋上の両端に分かれて発声練習に励んでいた事を思い出しながら。

音楽の原点 〜同級生K君との出会い〜

71期 松隈 道雄

NHKの朝のニュースのあとの短い番組『世界のメディアザッピング』を見ていた時、ある場面で目がテレビに釘付けになってしまった。その話というのは、アメリカのある牧場主でトランペットが好きな男性が、ちょっと気分を変えようと裏の牧場に向かってトランペットを吹き始めたら、丘の向うから牛が1頭、2頭と現れ、何10頭もの牛がみんな頭を垂れ、トランペットの音に聞き入っているのだ。男性は面白くなってしばらく吹いていたが、くたびれて吹くのを止めた途端、牛たちは名残惜しそうに何度も振り返りながら、1頭、2頭と消え、最後は残らず丘の向うに行ってしまった。

私の人生を限りなく豊かにしてくれたクラシック音楽、その味わい方を教えてくれたのは、高1の時の同級生、喜多尾道冬君(K君)だ。K君はドイツ文学者、音楽評論家で、その執筆・翻訳・評論活動は、文学・音楽・絵画・映画など多岐に亘っている。中でもドイツ、ロマン派の音楽についての造詣の深さは、専門家の間でも高く評価されている。そのK君が10数年前、NHKの音楽番組『ぴあのピアノ』(シリーズもの)に解

説者として出ていた。テレビの中のK君は、また一段と端正でハンサムだった。

あとになって分かったことだが、私が中3の時の英語の先生がK君の母上だった。教室にはいつも着物姿でお見えになり、ある時何かの拍子で私が当てられ「*Hot*」と答えたら、マツクマ君、中3にもなつて「*Go not*」とは何ですか！と言つて頭を抱えてしまわれた。母上は時々英語の美しい文章を、韻を踏んで、歌を歌うように朗読してくださった。*I saw a lovely arch of the rainbow span the sky...*

私達は気分が浮きうきしてくと鼻歌が出てしまう。美しいメロディが流れてくると思わず耳を傾けてしまう。こうした気持ちを表すのに、「音楽」という漢字を思い付いた人は称賛に値する。これほど意味が深く、広い範囲をカバーしている漢字が他にあるだろうか。



パリ、サンシュルピス教会のパイプオルガン
(世界で一番音色が美しいと言われている)

「最後の手紙」コンサート

82期 八牧 浩行

静高教育講演会(2023年6月)で戦争のない平和な世界の実現を訴え、多くの静高生が熱く共鳴してくださった。ところが戦火は拡大するばかり。ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルのパレスチナ自治区ガザ地区への攻撃…。戦争はいつたん始まると止まらない。

NHK朝ドラ「あんぱん」では太平洋戦争末期から戦後の混乱期と悲劇が描かれ釘付けになった。一般市民や兵士の犠牲者が累増。赤紙(召集令状)、特攻、原爆。戦火の爪痕は消えない。

想起するのは、第2次世界大戦で戦死した兵士の『最後の手紙』コンサート(2022年7月、サントリホール)である。平和な世界を願うオーケストラ付き男声合唱曲「最後の手紙」(The Last Message)は「反戦鎮魂歌」である。第2次世界大戦で亡くなられた12カ国の兵士の最後の手紙をもとに作曲家・三枝成彰氏が作曲。2010年に東京で初演されて以来、世界各国で演奏され感動を呼んだ。

第2次世界大戦で犠牲になった、日本、中国、朝鮮、米国、ソ連、ドイツ、フランス、イタリア、英国、ポーランド、トルコ、ブル

ガリアの12カ国13人の兵士の死を前にした「最後の手紙」をもとにした13曲。それに、各国語で「私たちに平和を与えてください」という祈りを歌う終曲が付く。



兵士たちの最後の手紙をもとに三枝成彰氏が祈りを込めた曲が男声合唱団とオーケストラにより披露された。

「いのちの祈り」ともいえるこの曲は三枝氏が、自ら団長を務めた六本木男声合唱団倶楽部(総勢約120人の市民合唱団)10周年のために、書き下ろした作品。「戦争を憎み、かつ平和を望み、祈る姿は世界共通であり、全人類がその姿勢を共有しようという、祈りと願いを曲に込めた」という。東京での初演の後、世界中で大きな反響を呼び、2011年11月にはジュネーブで公演、好評を博した。2023年4月にはロシア・ボルゴグラード(旧名スターリングラード)公演を成功させた。スタンディングオベーションが続き、拍手が鳴りやまなかった。

愛する家族や恋人との絆を大切に
第2次世界大戦で亡くなった

人々の最後の手紙が、1991年に『人間の声』という一冊の本として出版された。どの手紙も、残酷な戦争とそれによって愛する家族との絆が裂かれることが2度と起こらないように願うものばかり。三枝氏は東京芸大時代に和訳されたこの本を読んで以来、彼らの生きた声を、音楽の形で後に続く世代に残したいと思い続けてきた。多くの手紙の中から13通の手紙をもとに作曲、「戦争で命を落とした人びとの思いが、この作品を通じて、世界に平和をもたらすことを切に願ってやみません」と同氏は語っている。

レジスタンスで捕まり処刑された、フランスの16歳の少年の「最後の手紙」は「兵士たちが僕を連れに来ます。僕の字は少し震えていて、読みにくいかもしれない。それは鉛筆が短いせいです。死を恐れて怯えているのではありません。ささやかな蔵書はお父さんに。思い出のコレクションはお母さんに。一生懸命勉強した教科書は弟に。大切な日記は愛しいジャンヌに贈ります」。

中国兵は「服に涙が落ちる。誰も過去の日々を忘れることなど出来はしない。母に別れを告げなければならぬ時が来る」と辞世の手紙をしたためた。

日本人兵士は「日曜日の朝、思うのはいつもお前のこと。お前のまつげにそっと触れ、静かに抱いていた。日傘をさし、青いブリンセスのワンピースを着たお前の夢を見た」と妻に宛てた。

アメリカ兵は「戦争は地獄だ、地獄だ」と叫び、イギリス兵は「神よ、僕たちに力を与えてください。僕たちが造ったものが世の中の役に立つものとなり、決して僕たちの支配者にならないように」と訴えている。



東京・サントリーホールでの『最後の手紙』コンサートプログラム。各国でも演奏され感動を呼んだ。

この曲は戦争の悲惨さをアピールする総合芸術といえる。当然ながら、悲嘆にあふれた曲がほとんどで、男声合唱と管弦楽が、激しく、時には切々と「絶望」と「別れ」を表現する。特に残された人への思いがヴァイオリンやチェロなどで美しく美しく奏でられ、心に染みる。

舞台上のスクリーンに、英語と日本語でそれぞれの「最後の手紙」が映し出された。時折、ナレーションも入り、会場内には思わず涙ぐむ姿も。

演奏の最後にスクリーン上に、第2次世界大戦での各国別のおびただしい犠牲者数がつぎつぎ明示されたあと、「全世界で7000万〜8000万人」の数字が冷酷に浮かび上がった。休憩をはさまず

1時間45分ぶつ通しの演奏にもかわらず、聴衆は最後まで熱心に耳を傾けていた。

静高音楽クラブ先輩から継承

合唱団メンバーの秋山幹男弁護士（80期・ハーモニカクラブ先輩）は「戦死者一人一人の『最後の手紙』は悲痛で我々の感情を揺さぶる。音楽を通じて、戦争の悲惨さを改めて認識し訴える意義がある」と思い、これからもこの曲を歌い続けたい」と語っていた。

新聞・テレビなどで、ウクライナや中東をはじめ各地での戦死者数が冷酷に報じられるが、一人の兵士にとってはかけがえのない命。家族も恋人もいる。一刻も早い停戦を切望したい。

1930年代に世界の分断＝ブロック経済化が進行。他国への侵略など大国の勝手な振る舞いが第二次世界大戦を招いた。人類は深く反省しなければならぬ。今超大国は「自国ファースト」を標榜。関税を相次ぎ引き上げ、貿易戦争を激化させている。

2022年2月のウクライナ侵攻開始後のロシア兵の戦死者は12万人以上に上っている。平均年齢は39歳。ウクライナ兵の戦死者や負傷者も数えきれない。中東ガザでの無辜の民の犠牲者も6万人以上。餓死者が増え続け、子どもや女性・高齢者も含まれる。

親子に問いかける、生きる意味 NHK朝の連続テレビ小説「あなばん」は後半部分で、日本の復興・平和を扱い、その中で夫婦の絆や広く人間愛にスポットを当てた。

やなせたかしは『手のひらを太陽に』をはじめとする作詞、詩歌を発表。演出家や絵本作家としても多彩な才能を発揮した。

興・平和を扱い、その中で夫婦の絆や広く人間愛にスポットを当てた。

私のテニス人生

〜テニスプレイヤーズクラブ 代表世話人として〜

82期 青木 弼

彼の真骨頂は『それいけ！アンパンマン』に象徴される、漫画家としての活躍。ドキンちゃん、バキンマンなど夥しい数のキャラクターは純真な子どもたちの心をつかんだ。

なんのために うまれて なにをして いきるのか こたえられないなんて そんなのはいやだ！ いまをいきることで あついこころ もえる

だから きみは いくんだ ほほえんで

そうだ うれしいんだ いきるよろこび たとえむねのきずがいたんでも ああ アンパンマン やさしいきみは いけ！みんなのゆめまもるため

なにがきみの しあわせ なにして よろこぶ わからないままおわる そんなのはいやだ！ わすれないで ゆめを こぼさないで なみだ だから きみは とぶんだどこまでも

（アンパンマンのマーチより）

静高時代は生徒会活動と野球部の応援に没頭、テニスに全く目覚めていなかったが、静岡大学に入学して思いがけず硬式テニス部に入り初心者として「テニス人生」をスタート、卒業後三井物産に入社。物産のテニスコートでデビスカップ代表選手だった加茂公成さん、松浦督さん、全日本テニス選手権ダブルスチャンピオン高石勝さん他、有名選手たちとの交流が始まる。

テニス人脈を通じた交流

1969年12月末に最初の海外駐在である米国テキサス州ヒューストンに赴任、そこでテニスを通して米国における人脈が形成された。1988年7月から1995年1月末まで、米国テネシー州ナッシュビルでも州知事のみならず元米国大統領首席補佐官ハワード・ベーカー氏、元国務長官イーグルバーガー氏等との交流もテニス人脈を通して醸成された。トム・カイト氏ら有名プロゴルファーとも親しくなった。

1995年7月から1999年2月末までシンガポールに駐在。三井物産アジア鉄鋼プロジェクトコーディネーターとして16ヶ国をテニストラケット持参で訪問。各国の要人とテニスを通しての深い交

流を築くことができた。

1969年3月に日本へ帰国後、同年10月頃から現公益財団法人日本テニス協会での委員を務め、その後委員長、本部長などを歴任、現在も理事待遇として関わっている。

三井物産時代のテニスは政界・官界・経済界の方々と交流が盛んで、人脈が広がり、それが大いに役立ち、結果として素晴らしい仕事ができ、同時にテニスを通して健康も維持でき、いまだ年を重ねても世代が違ふ人たちと一緒にプレイを楽しんでおり、テニスには大いに感謝している。

TPCと日本テニス選手を応援

TPC(テニス・プレイヤーズ・クラブ)は日本のテニス、特にジュニアを含むナショナルチーム選手を応援することを目的に結集された。政界、官界、実業界のテニス愛好家が1969年に立ち上げた任意ボランティア支援ネットワーク。現在約220名が会員登録されている。

時の経過とともにTPCの会員構成や活動内容も変化してきた。今なお継続している主要活動は、海外で転戦する我が国のジュニア選手やアウェイ開催のデビスカップ、ビリージーンキングカップ、ジュニア国別対抗戦等への海外勤務経験者を通じた国際サポートだ。国内活動では我が国で開催されるデビスカップ、ビリージーンキングカップ、全日本テニス選手権大会等での応援及び観客動員、ナショナルジュニア育成強化活動への寄附等が挙げられる。

化活動への寄附等が挙げられる。

2023年に有明コロシアムで開催されたビリージーンキングカップの対ウクライナ戦では、大会終了後、TPCはその国際活動としてウクライナテニス協会に対し義捐金を渡した。

日本のジュニアナショナルチームのサポートは国際活動と切り離せない。母国が戦禍にあいながら頑張っているウクライナ選手団へ、励ます声が自然と湧きあがった。(筆者・中央右の白色ブレザー姿)



こうした日本テニスへのボランティアベースでの応援活動には、多くのテニス愛好者が参画するネットワーク作りが欠かせない。競技、観るスポーツ、生涯スポーツとしてのテニスへの支援には会員相互間の連帯が必要で、様々な活動を行っている。テニスを愛する皆さんの、TPCを通じたテニスとの新たな関りを心より歓迎したい。

連載エッセイ

たかが同窓会、されど同窓会

第30回 「老いの熟成」

71期 浦田 彰

初めて救急車に乗りました。昨年の暮れ、もちろん患者者として。その日の朝、突然の激しい悪寒、発熱、嘔吐、震え、脱力感。急いで119番通報、幸いに近くの総合病院に搬入され、さまざまな検査の末、即入院。病棟は老人病棟。その病棟での2晩は、忘れられない体験でした。早朝から深夜まで患者たちの苦痛のうめき声、看護師を呼ぶ切迫した叫び、夢にうなされたかの怒声、死を願うての号泣、シモの世話の最中の老人と介護士とのやりとり……。ああ、人間ってこうして老いて死んでゆくのか……。考え込んだ2晩でした。

曰く「足元が危ない。駅の階段も家の階段も手すりが必要だ」
曰く「小使が近くなった。夜中に2回も3回も」……。

米寿を超え、気力も思考力も確かにみえる友人たちですが、それでも「老い」の進行を気にし、それなりの対応を考えています。同期のひとり長倉真一君は「俺の寿命は90と決めている。それまで考えられる健康法はすべて有言実行。理想的な老後生活だ」。彼は、会ったたびに何かしら健康に役立つという食品やメッセージを配給してくれます。お見事な健康管理です。私も友人たちの有様を見聞きすると自分がどのような「老い」を生きているのかがよくわかります。

静岡の同期会幹事の当て推量によれば、同期360余名のうち健在者は100名足らず。そのなかで今でも現役として社会に関わっている同期生は、例えば、遠藤吉隆君のように定年後、趣味の民俗学や郷土史の造詣を生かして史跡探訪など地域の文化事業のコーディネーターとして活動しているとか、また職場のOB会や町内会の世話役などで頑張っている同期生や、引退したとはいえ、今だに家業に励んでいる同期生のことも仄聞しますが、ごくわずかです。それだけに、同期生や同窓生の情報や消息は励みになります。幸い健康寿命(男81.09歳)を超えたとはいえ、多くは私のように無役無為の毎日、次第に友が

消えてゆく寂しさに耐える日々です。

終末は、異口同音にピンコロリだといいます。しかしこれがむづかしい。現在93歳の作家・黒井千次さんは近著『老いの深み』の後書きで「まず、生きてみなければ始まらない」と述べています。「老後」は生物の中で人間だけが味わう生命現象だそう。だとすれば、残り時間を有意義に同老相励みながら、「老い」を熟成させつつ最晩年を生きてゆきたいと思っています。

♪

老いを迎え入れるな
もう少し生きたいから
ずっと分かっていた
いつか終わりが来ると
友人たちの傍にいよう
日暮れにワインで乾杯しよう
老いを迎え入れるな
年などどうでもいい

最近テレビで観た映画『運び屋』の挿入歌「Don't Let The Old Man In」の和訳の一部です。1930年生まれのカリント・イーストウッドが90歳の老ドライバーを演じています。好きな歌です。



能登で復興支援の手伝い なお深い震災の傷跡 「静高ネット」の広がりを実感

92期 日下 淳
94期 新村 敏雄

会報の前号（99号）でお知らせしたように、2025年6月中旬に能登半島を訪れるツアーを実施した。参加者は92期と94期の5人。今なお残る震災の傷跡の見学、雨中の支援活動、現地の方々との話など、貴重な体験をした。今回は予期せぬ計画変更があったが、参加者の人脈を駆使して適切に対応でき、静高OBのネットワークや機動力を改めて認識する機会となった。

今回の訪問は当初、約10人が参加し、岩手の震災復興NGO「Save Iwate」（代表・寺井良夫氏92期）が能登での拠点とする珠洲市の施設をベースにボランティアなどを行う予定だった。しかし実施の約一週間前に急遽変更を迫られる事態に。参加を見送る者もいたが、5人が「とにかく現場を見てみよう」と現地に赴くことにした。

「現地でどう動こう」と悩んでいたところ、94期の新村敏雄氏が機敏に対応してくれた。出身大学の人脈に接触し、あれよ、あれよと言う間に現地での支援活動や被災地見学などの計画を調整してくれた。92期の3人が同行した。



葡萄園場で雨中の作業。



穴水町にある金沢大地の葡萄園場で。受け入れてくれた川本さんと共に。

新村氏が卒業した大学の同窓生が「北陸支部」という組織をつくっており、5月末に会合を開催したばかりと聞いていた。そこでダメ元で「何か復興支援のお手伝いをさせていただけませんか」と支部関係者の田井陽子氏に問い合わせたところ、いわゆる復興支援と少し異なるがと、ご紹介いただいたのが石川県で環境保全型農業を営むオーガニックファーム、金沢大地が穴水町に保有する葡萄園場での作業。いま能登地域は人手が足りないとのことだった。作業した6月14日はあいにく結構な雨。金沢大地に勤務する大学同窓生の川本七穂子氏が現地で待っていてくれ、植えて一年という苗から出たつるの芽かきと誘引（芽を間引き、元気なものを残す）作業をお手伝いした。

作業の前、金沢市から穴水市まで車で移動の途中には、輪島市で別の大学同窓生（北崎裕氏）が営む日本料理店「海辺の柚径」でランチをいただいた。地震と豪雨のダブルパンチに遭っているにもかかわらず再建に向けて動き出している話を聞かせていただいた。



海岸では地震で隆起した場所がはっきり分かる。



崩れた家屋の跡と傾いた電柱。道路沿いにはいたるところにこうした風景が。

翌15日は、川本氏が今度は高校時代の友人を呼んでくれ、珠洲市の復興の状況を見学できる現場を案内していただいた。いまだに傾いたり窓が破れたりしたまま

まの家屋、沈みかけ傾いた電柱、崩れた路肩を補強した道路が至る所にあった。

珠洲市蛸島町の広大な災害廃棄物の仮置き場では、解体された住宅の木材などがいくつも小山のように積み上げられ、地震と豪雨の被害の大きさが実感できた。海沿いの道路に出ると、至るところで隆起している海岸を目にした。漁港周辺で隆起が発生し船が出られないというニュースは見ていたが、実際に現地で見ると、地震のエネルギーがいかに巨大であったかを思い知らされる光景だった。



別行動になった参加者は輪島市を見学。多数のボランティアが入り、神社などが拠点に。

静岡からは会報99号を見る機会があった97期の松永敦子氏から、能登ツアーに関する問合せがあった。同時に、能登半島復興支援の一環として行われている「輪島塗販売プロジェクト」（被災者が保有していた漆器を販売して支援金にする）に、静岡で97期と100期の方々が協力していると報告をいただいた。

輪島塗販売のプロジェクトは「Save Iwate」が熱心に取り組んでおり、10月25・26日に鎌倉・建長寺で行った岩手県的神楽公演の際にも会場や境内で販売した。多数の方々に購入いただき、能登に関する思いを語られる方も少なくなかった。



初日は雨天の下、境内でも販売。国の重要文化財である法堂の軒下を貸していただいた。



神楽公演の会場内で輪島塗を販売。休憩時間などに多数の方が購入してくれた。

岩手から能登、静岡、鎌倉とつながる活動。静高OB・OGの連携やメンバーの人脈を通じて広がるネットワーク。静高関東同窓会有志としての「Save Iwate」や震災復興への関わりは10年以上にわたるが、今年の能登訪問でもまた新たな発見があり、新たなことを学んだ。

聖クリ・常菊から与えられた
試練に立ち向かう

岳南球友会 94期 松永 啓

今夏は、庵原・浜松・愛鷹・草薨の各球場で、ベストを尽くした試合が出来た。三回戦の藤枝東戦では、本校夏史上最多の一試合十六名が出場し、投手捕手内外野手の一年生が活躍、その一人平野光星一年捕手が伝説の水野白鳥を思い起こさせるような大本塁打を放った。劣勢の日大三島戦でフライングプレーを重ねて八回の逆転に繋げ、静商を厳しく攻めてスキを与えず完勝し、東海大静岡翔洋に粘り勝った末に、強靱な聖隷クリストファーに果敢に挑んだ。同校に公式戦ゼロ勝五敗となる準優勝にとどまったが、内容には、未来に繋がる希望が感じられた。

九月七日に早実「王貞治記念グラウンド」で強打を発揮した新チームは逞しく有望に見えたが、秋の県大会で常葉大菊川に〇対七で完敗した。常菊の石岡監督には、選手時代に二敗、監督になって四敗の計ゼロ勝六敗。静高はもはや強い私学に勝てない「公立古豪なのか？」その先は「普通の部活か？」と危機感が再び高まった。

難局に際し、静中静高野球の長い歴史を、ファンの視点から一冊の本にまとめ、来年二〇二六年春に自費出版の予定だ。『岳南の球音(たまおと) 静中静高野球史物語』と題して、過去からの草稿をまとめ、七十期望月一男内野手を

友会長・七十七期石山建一主将遊撃手他の懇切な監修のもとに、静岡新聞社のご助力を戴き製作中だ。多くの野球部OB・恩師・同窓生・市民ファンのご支援も賜れ、ご厚意が満載だが、百三十余年間を対象とした長編ドキュメンタリーとご寄稿の編集校正に莫大な事務量が発生。今や精魂尽き果てる寸前にて、何とか形にすべく全力を傾注し、関東同窓会の諸先輩が、本校野球史を大河の流れの如くに描くよう督励下さった恩義に報いたい。私の定年退職後生活は、小企業での酷寒炎天屋外労働・静高野球応援・出版作業により大恐慌に陥ったが、唯一、関東同窓会の諸行事、会員諸兄姉の教えのみが、自分にとって「文化文明の光の窓」なのだから。

岳南球友会も誠に感謝すべきことに、本年十二月十四日(日)十五時恒例の球友忘年会に、キヤンディーズより若い九十五期生OBA(オバ)と関東同窓会系の湘南87(エイティセブン)年輪ではなく期)バンドが出演の名乗りを挙げて下さった。どなたも共にクリスマススを祝い、舞踊と合唱で、讃美歌三九三番「かみをたたえてなすつとめにたかきひくきのへだてあらじ」を、皆様で声清らかに、聖隷・常菊から与えられた神の試練に向き合って岳南善男善女の心を暖め合おう。

来たる二〇二六年は野球部創部百三十年、全国優勝百年のメモリアルイヤー。吾等が球神・球聖を祝福し、復活を信じて、永い道のりをコソコソと歩みたい。



夏の応援(庵原・浜松・愛鷹・草薨)

平野・奥山・村上・田原等は
伝統の強打線を培う。

エース鈴木颯真



9月7日早実「王貞治記念グラウンド」にて

事務通信

会報約3400通のうち、住所が無効となり返戻される郵便物は毎回20通前後にとどまっています。これはひとえに皆様が、住所変更等のご連絡を丁寧にしてくださっているのおかげです。ありがとうございました。一度無効となった住所には送付せず残念なことに退会の手続きをしなくてはなりません。今後も引き続き、会員維持にご協力をお願いします。



とをい絡
録更して連
登変住所
規所用住
新兼用所
住兼用所
のフォー
です。

ホームページの「お問い合わせ」にある住所変更フォームがおかげさまで活用されています。コメント欄がありますので、様々なご事情も入力できます。

このほかにもメール、FAX、年会費払込票の通信欄、オンライン決済コメント欄など、ご都合に合わせてご連絡ください。

年会費(維持費)

当会は、皆様からの年会費・会報掲載広告代でのご支援により運営されております。総会を初め異業種交流会など都内の会場をお借りし、また参加しやすい懇親会費を設定し同窓生同士の交流をしています。おひとりでも多く

の方のご理解をいただけますようよろしくお願いいたします。

◎オンライン決済は手数料が掛かりませんので、おススメです。



「ウェルネット」社の決済方法を選んでください。
「ウェルネット」社の決済方法を選んでください。
「ウェルネット」社の決済方法を選んでください。

【決済方法】
・クレジットカード
・ネットバンキング(ペイジー)
・コンビニ店頭払い
・スマホ決済アプリ「支払秘書」

◎各銀行オンライン送金も歓迎致しますが、ゆうちょダイレクトみずほダイレクトにご加入の方以外は、手数料がかかります。

★ゆうちょ銀行

〇二九(ゼロニキユウ)店

当座 0009969

★みずほ銀行

江戸川橋支店

普通 8078861

依頼人欄の期・氏名を忘れずに！

その他、お問い合わせは

shizukokanto@gmail.com

◆ホームページ閲覧状況

2025年度上期(4月～9月)

訪問者数: 33857人

(前回14913人)

ページ閲覧数: 297456回

(前回177025回)

◆会員現況: 3299名(42名減)

鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長 鈴木 与 平 (76期)

代表取締役社長 鈴木 健一郎 (110期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1

TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-22-7

TEL 03 (6404) 2100

「何宗ですか?」「ハイ、皆之宗(みなのかう)です!」

〜いざという時、頼りになるかかりつけのお寺〜

普 門 庵

臨済宗大徳寺派 住職 見城宗忠 (90期)

206-0801 東京都稲城市大丸 857

TEL: 042-378-1707 Fax: 042-379-8647

URL: <http://www.fumon-an.jp>



建築・不動産活用などのご相談はどうぞ

Architects Office

一級建築士事務所

石川 雅英 (94期)

Masahide Ishikawa

108-0071 東京都港区白金台 3-2-16-201

T 03 - 5422 - 6525 HP www.rvstone.com

architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp

伊豆の旬



www.yanmo.co.jp

小林 秀男 (97期)

< 南青山 > 東京都港区南青山5-5-25 T-PlaceビルB1

TEL: 03-5466-0636 (日曜日のみ休)

< 丸の内 > 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビルB1

TEL: 03-5224-3322 (定休日なし)

< 大手町 > 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビルB1

TEL: 03-3278-7272 (土日祝定休)

伊豆の旬

伊豆の旬

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方 重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

敷下ビル6F

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820

著作権・許認可・遺言相続・船舶等のご相談はどうぞ!

行政書士・海事代理士山本数馬事務所

行政書士・海事代理士 山本 数馬 (103期)

〒221-0001

神奈川県横浜市神奈川区西寺尾 3-21-16

TEL & FAX: 045-633-1582

MAIL: ym-admscr@nifty.com



相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848

E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

* 昼 2 時より夜11時まで診療 *

医) 名泉会タカラ歯科診療所

代表 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩 5 分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒 2-18-13

新店舗アットワンダーJG 開店!



見るだけで楽しい120坪の大型書店
失われていく記憶と、それを愛するすべての人に

文学/歴史/思想/哲学/映画/芸能/音楽/美術/サブカルチャー
アニメ/ゲーム/アメコミ/古書漫画/スポーツ/ポスター/紙物他

アットワンダー本店
地下鉄「神保町」A1
神田神保町2-5-4
開拓者ビル1・2F

アットワンダーJG
地下鉄「神保町」A5出口出で左
サイゼリヤ角曲がる
神田神保町1-4-5
日商第一ビル1F

アットワンダー本店も通常営業
書籍 家財 雑貨等の買入れ、整理、片付けの
ご相談はお気軽に! wonder@atwonder.co.jp
アット@ワンダー 0120-154-727 店主: 鈴木宏 (91期)



ブックカフェ二十世紀 (本店3F) にも
ぜひお立ち寄りください。

← イベント等詳細はホームページへ





稲葉総合法律事務所
Inaba & Partners

パートナー
弁護士 小杉祥代 (107期)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2
東京サンケイビル18階
TEL : 080-5966-4384 (直通) 03-6265-1895 (代表)
FAX : 03-6265-1899
Email: sachiyo.kosugi@inaba-law.jp
URL : <https://www.inaba-law.jp/>



株式会社 **ウエマツ**

代表取締役社長 福田浩志 (97期)



〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-34-13
TEL. 03-3953-1101 FAX. 03-3953-0557



〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 8-12-2
TEL. 048-449-8777 FAX. 048-449-8733

静岡の美味しいもの

ガッツ



代表 市川 徳二 (112期)



高きを仰ぎて心を繋ぐ

さあ一緒に時空を超えて
吾等が聖地を歩みましょう

岳南球友会

会長：望月 一男 (70期 野球部)

H P 「岳南球友会」

連絡窓口：080-5580-2958 (94期 松永)

メール：k30.ska-1213m@ezweb.ne.jp



相談役 主筆

八牧 浩行

Yamaki Hiroyuki

**Record
China**

株式会社 Record China

東京都中野区本町3-30-4

KDX中野坂上ビル1F

090-2653-9469

hiroyuki.yamaki@gmail.com

幼児教育に新しい風を



こぐま会
幼児教育実践研究所

代表取締役 久野泰可 (83期) 取締役 久野淑子 (83期)

本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F
TEL 03-3463-3815

Lighting for Your Safety

Koito

<https://www.koito.co.jp>

安全を光に託して

人とクルマの安全は私たちの願い

本社：東京都品川区北品川5丁目1番18号 TEL:03-3443-7111
国内工場：静岡、榛原、相良、富士川、九州
海外工場：USA、メキシコ、ブラジル、UK、チェコ、中国、台湾、
タイ、インド、インドネシア、マレーシア

小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)